

平成30年3月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成30年3月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

日本最大級の朝市「館鼻岸壁朝市」が、今年は、3月18日（日）に開幕します。普段は何もない広大な岸壁に、毎週日曜日の早朝にだけ出現する巨大朝市・館鼻岸壁朝市。全長800メートルにわたって300以上の店が立ち並び、毎週数万人もの人出を誇ります。

食の宝庫であり、市民の社交の場でもある朝市は、早朝からにぎわいを見せる八戸の元気の源です。

みなさまも、八戸にお越しの際は少し早起きをして、八戸ならではのライフスタイルを体験してみませんか。

■館鼻岸壁朝市

開催日時 2018年：3月18日～12月の毎週日曜 日の出～9：00頃

※例年、お盆と年末に臨時開催あり

※2018年5月13日（日）うみねこマラソン開催日は休市

※朝市の詳細は、こちらのホームページをご覧ください。

<https://hachinohe-kanko.com/10stories/asaichi/tatehanaganpeki-asaichi>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 3月号 レポート

平成30年2月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸三社大祭 国内外にPR 市が新動画を制作
(2)	ふるさとイベント大賞で『八戸工場大学』が「ふるさとキラリ賞」受賞
(3)	官学4者検討会提言「八戸にパンダ誘致を」
(4)	屋内スケート場 建設工事が着々と進む
(5)	マチニワの正式名称「八戸まちなか広場」に決定 7月21日オープンへ
(6)	八戸・新大橋 架け替え工事で2019年春から通行止め

【産業】

記事	概要
(7)	「八戸あさぐる」新コースでモニター企画実施 せんべい店や蕪島、朝市を体験
(8)	「南部バス」運行高速バス 初の女性運転士誕生
(9)	2017年八戸港コンテナ取扱量 過去2番目の多さ
(10)	青森県内の外国人宿泊者が22万人を突破
(11)	全国推奨観光土産品審査会 舘功さんの「木の扇子」が特別優秀賞
(12)	青森商校教諭 本田さん（八戸出身）執筆「シリーズ藩物語 八戸藩」発売

【地域】

記事	概要
(13)	全日本電卓競技大会 八戸商業珠算部が団体の部で全国優勝
(14)	蕪嶋神社 再建進捗5割 復旧へ歩み着く
(15)	島守盆地で「かんじきウォーク」開催 3.7キロの雪景色を堪能
(16)	全国規模の広告賞 地域ラジオCM部門で八戸重工商事の2作品が入賞
(17)	園児、ブイヤベース味わう ～シェフの魚さばきに歓声～
(18)	情報技術に精通の「ITマスター」 アイティワークの岡本さん認定

【文化・スポーツ】

記事	概要
(19)	東北高校選抜レスリング 工大一高18年ぶりに優勝
(20)	北国に春を呼ぶ「八戸えんぶり」 ～青空の下 摺り晴れやかに～
(21)	平昌五輪アイスホッケー女子日本代表のFW中村亜実選手 ～激闘「自信につながった」～
(22)	「山・鉾・屋台行事」 東京五輪で魅力発信を 機運高まる

【行政】

記事	概要
(1)	<p>八戸三社大祭 国内外にPR 市が新動画を制作</p> <p>八戸市は、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の「山・鉾・屋台行事」に登録された八戸三社大祭を国内外に周知しようと、新たなPR動画「The Japanese Traditional Arts 八戸三社大祭」を制作した。動画では山車の行列やせり上がりを早回しで表現。神社行列や郷土芸能にもスポットを当て、外国人観光客に向けて日本らしさを盛り込んだ。動画は約2分と約4分の2種類で、英語、中国語、韓国語に対応した多言語版も作成した。八戸市観光情報サイト「八戸観光Navi」、動画共有サイト「ユーチューブ」で公開している。</p>
(2)	<p>ふるさとイベント大賞で『八戸工場大学』が「ふるさとキラリ賞」受賞</p> <p>八戸市の工場とアートを組み合わせた市のプロジェクト「八戸工場大学」が、地域の活力を生み出す全国各地のイベントを表彰する「第22回ふるさとイベント大賞」（主催・地域活性化センター）で、選考委員会表彰に当たる「ふるさとキラリ賞」を受賞した。市は2013年に工場大学を“開学”し、大学になぞらえた講義や課外活動、サークル活動を展開。地元の工場が持つ多様な魅力に着目し、理解や親しみを深めた点などが評価された。表彰式が3月1日に東京都で開かれた。</p>
(3)	<p>官学4者検討会提言「八戸にパンダ誘致を」</p> <p>八戸市と八戸工業大、八戸学院大、八戸高専の4者で組織する「市都市研究検討会」は2月16日、市庁で会合を開催。本年度の研究テーマで掲げた「地域資源を活かした魅力ある観光創造」に関し、5項目からなる提言を取りまとめた。提言では、畜産業が盛んな地域性を生かし、鶏肉を活用した新たな「食」を考案するほか、友好都市である中国・蘭州市との関係を踏まえたパンダの誘致、観光客を意識した商品開発などを盛り込んだ。</p>
(4)	<p>屋内スケート場 建設工事着々と進む</p> <p>八戸市立屋内スケート場の建設工事が着々と進んでいる。市屋内スケート場建設推進室によると、現在、建物の外壁と床の工事が盛んに行われており、5月ごろから屋根の骨組みにも取り掛かる予定。10月ごろには屋根も完成し、氷を張るアリーナ部分の整備に着手するという。今冬は雪による工事の遅れもなく、2019年秋の供用開始に向けて順調に進んでいる。楕円形の建物を取り囲むように外壁がくっきりと現れ、市民の注目度も高まっている。</p>
(5)	<p>マチニワの正式名称「八戸まちなか広場」に決定 7月21日オープンへ</p> <p>八戸市は2月21日、三日町の「はっち」向かいに建設中の「（仮称）三日町にぎわい拠点」の名称を「八戸まちなか広場」とし、7月21日にオープンする方針を明らかにした。これまでの通称「マチニワ」は引き続き愛称で使用する。マチニワは、水や緑など自然の要素を取り入れた全天候型の「庭」をコンセプトに、食のイベントの開催なども想定。本体は全面ガラス張りで、地下1階、地上2階建て。開館前の7月13日～16日に市中心街で開かれる「八戸七夕まつり」に合わせ、時間限定のプレオープンも検討している。</p>
(6)	<p>八戸・新大橋 架け替え工事で2019年春から通行止め</p> <p>八戸市の馬淵川に架かる市道沼館小田線の「新大橋」の架け替え工事で、市は2月21日、2019年春から橋を通行止めにする計画を明らかにした。工期は現段階で18年度から約10年間を見込んでおり、迂回路となる沼館大橋周辺の「沼館3丁目交差点」などでは、渋滞緩和に向けた交通対策を展開する。交通対策に関わる工事は18年度の1年間を見込み、完了後に新大橋の通行止めを実施。架け替え工事は18年度から準備を進める。</p>

【産業】

記事	概要
(7)	<p>「八戸あさぐる」新コースでモニター企画実施 せんべい店や蕪島、朝市を体験</p> <p>八戸観光コンベンション協会は、タクシーを利用して八戸市の早朝文化を体験する「八戸あさぐる」の新メニューの開発を目指し、2月限定で観光客向けのモニター企画を実施した。今回のモニターでは、近年増加している観光客にもアピールしようと、手作りのてんぼせんべいを提供する「上館せんべい店」と陸奥湊駅前朝市、蕪島と同朝市をそれぞれ訪れる2コースを用意した。モニターの結果を踏まえ、4月からの商品化を検討する。</p>
(8)	<p>「南部バス」運行高速バス 初の女性運転士誕生</p> <p>岩手県北自動車（盛岡市）南部支社が運行する「南部バス」で、今冬から坂まさ子さん(49)＝八戸市＝が高速バスの運転士として活躍している。旧南部バス時代の1989年に高速バスの運行を開始して以降、約30年間で女性ドライバーの誕生は初めて。全国的にも数は少ないという。坂さんは、バスドライバーに転職する前は、約15年にわたってダンプカーの運転手を務めた経験もあり、安全運転で無事故を続けている。乗客の安全を心掛けてハンドルを握る坂さんは「安心して快適に乗ってもらえるように頑張りたい」と意気込んでいる。</p>
(9)	<p>2017年八戸港コンテナ取扱量 過去2番目の多さ</p> <p>2017年の八戸港のコンテナ貨物取扱量は5万6429本に上り、3年連続で5万本の大台を突破。八太郎2号埠頭にあるコンテナヤードを利用した通常の取り扱いでは、前年実績を4266本(8.2%)上回り、15年に次ぐ過去2番目の多さだった。航路別では「中国・韓国航路」と「韓国航路」による週3便体制の外航が2万6484本、週4便体制の内航が2万9945本となり、近年の傾向と同様に内航が外航を上回った。</p>
(10)	<p>青森県内の外国人宿泊者が22万人を突破</p> <p>観光庁の調査で、青森県内の2017年1月～11月の外国人延べ宿泊者数は前年同期比1.6倍の22万1770人となり、初めて20万人の大台に乗った。空路の新設のほか、旅行会社関係者や外国人プロガーらによるPR効果が後押しし、今後も観光客を中心に増加が予想される。ただ、市内18のホテルが加盟する八戸ホテル協議会によると、外国人の利用が多いのは八戸駅周辺。北海道などに行くための“中継地点”としての宿泊が多く、単泊がほとんど。八戸市内の観光地や商業施設への誘客など、地元への波及につながられるかが今後の課題となる。</p>
(11)	<p>全国推奨観光土産品審査会 館功さんの「木の扇子」が特別優秀賞</p> <p>八戸市小中野の木工細工師館功さん(75)が手掛けた「木の扇子」が、全国推奨観光土産品審査会（日本商工会議所主催）で特別審査優秀賞を受賞した。扇子は幅40センチほどで、青森ヒバの素材を生かした、しなやかさと軽さが特徴。風をつくり出す扇面は、約0.3ミリの薄い板に和紙を挟んだもので、2、3回あおぐと木の香りがほのかに漂ってくる。館さんは「地元の木材で作った商品が認められてうれしい。達成感がある」と喜びを語った。値段は1本8500円（税別）。</p>
(12)	<p>青森商校教諭 本田さん（八戸出身）執筆「シリーズ藩物語 八戸藩」発売</p> <p>八戸市出身で青森県立青森商業高教諭の本田伸さんが執筆した「シリーズ藩物語 八戸藩」（現代書館）が2月18日、八戸市内で全国に先駆けて発売された。藩物語は江戸時代の全国諸藩の歴史をそれぞれ一冊にまとめる人気シリーズ。「八戸藩」は藩政時代の政治、文化、人物を分かりやすくまとめ、コラムではフィリピンに流された八戸の商船や義経北行伝説、八戸南部家伝来という人魚と天狗のミイラなどを紹介している。価格は1728円（税込み）。</p>

【地域】

記事	概要
(13)	<p>全日本電卓競技大会 八戸商業珠算部が団体の部で全国優勝</p> <p>東京で1月に開かれた第21回全日本電卓競技大会（日本電卓技能検定協会主催）で、青森県立八戸商業高珠算部3年の中村咲枝さん、笹本穂乃実さん、林麗奈さんが団体の部で全国優勝を果たした。同大会には全国各地から個人249人、76団体が出場。団体の部は、3人一組のチームによる合計点数で争った。中村さんら3人のチームは、2位の浜松商（静岡）に100点近くの差をつけて突き放し、見事優勝を飾った。高校生活最後の公式戦を終え、3人は「有終の美を飾ることができてうれしい」と喜びを語った。</p>
(14)	<p>蕪嶋神社 再建進捗5割 復旧へ歩み着く</p> <p>焼失した社殿の再建が進む蕪嶋神社で2月7日、工事現場が報道陣に公開された。工事は大きなトラブルなく順調だといい、屋根や外壁の形が見える段階まで進んでいる。8月5日に上棟祭を行う見通しで、2019年12月の完成と20年春の一般開放に向け、復旧の歩みを着々と進めている。一方、同神社再建実行委員会によると、総工費5億円に対し集まった寄付金は3億3千万円で、あと1億7千万円必要だという。同神社では寄付に加え、屋根に使用する銅板の裏側に氏名や住所、願い事などを書き込める「奉納銅板」も1口3千円で募っている。</p>
(15)	<p>島守盆地で「かんじきウォーク」開催 3.7キロの雪景色を堪能</p> <p>八戸市南郷島守の島守盆地をスノーシュー（西洋かんじき）で歩く「かんじきウォーク」が2月10日、現地で開かれた。コースは地域の雪深い場所を歩く全長約3.7キロ。参加者はスノーシューを履き、サクランボやソバの畑や、盆地にあるさまざまな歴史の名所などを見て回った。途中、お汁粉や甘酒で体を温めたほか、昼食はかやぶき屋根の古民家「館のやかた」でイノシシのスープを味わった。20人の参加者が水田や畑の間を縫ってゆったりと歩きながら、静かな雪景色を堪能した。</p>
(16)	<p>全国規模の広告賞 地域ラジオCM部門で八戸重工商事の2作品が入賞</p> <p>八戸市で建設機械部品や潤滑油卸売業などを手掛ける八戸重工商事のラジオCM2作品が、一般社団法人全日本シーエム放送連盟が主催する全国規模の広告賞「2017 TOKYO CREATIVITY AWARDS」（東京クリエイティビティアワーズ）の地域ラジオCM部門で、優れた作品として東北の中で唯一選ばれた。同社の三浦大助社長は昨年、ラジオを聞く機会が多いであろう建設現場などの作業員に向けて面白いCMを作ろうと考案。「今後も事業を盛り上げるために楽しいCMを作っていけたら」と意欲を見せた。</p>
(17)	<p>園児、ブイヤベース味わう ～シェフの魚さばきに歓声～</p> <p>八戸市のかもめ幼稚園と姉妹園のすみれ保育園の年長園児39人が、八戸プラザホテルで、地魚について学びながら八戸ブイヤベースを味わう食育イベント「八戸こどもレストラン～八戸ブイヤベースフェスタ2018特別編～」に参加。幼い頃から地元の魚を知り、親しんでもらう目的で、八戸ハマルレーションプロジェクトが実施した。子どもたちは、ホテルのシェフの魚さばきに興味津々の様子で、包丁さばきにきぎ付けになり歓声を上げていた。</p>
(18)	<p>情報技術に精通の「ITマスター」 アイティワークの岡本さん認定</p> <p>厚生労働省は情報技術関連に精通した技術者「ITマスター」として、八戸市のシステム会社「アイティワーク」の岡本信也取締役(39)を、青森県南地区で初めて認定した。ITマスターは、学校などに技術者を派遣する厚労省の「若年技能者人材育成支援等事業」の一環で、グラフィックデザインやロボットソフト組み込みなど、5職種に関する実務経験といった要件を満たし、技能継承に意欲のある熟練者を認定する制度。今後は学校や中小企業からの要請を受け、児童・生徒、若手従業員を対象に講習や実技指導を展開し、地域のIT人材の育成に取り組む考えである。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(19)	<p>東北高校選抜レスリング 工大一高18年ぶりに優勝</p> <p>八戸工大一高レスリング部が「第57回高松宮杯東北高校選抜レスリング大会」で、18年ぶりの団体優勝を果たした。東北大会には、昨年11月に行われた各県予選を勝ち抜いた12校が出場。工大一高は1位で予選を通過し4年連続出場、東北王者を目指し試合に挑んだ。同部は年間365日、ほとんど休まずに練習。2年の西舘黎主将は「先輩たちも目標としていた結果にたどり着け、本当にうれしい」と喜びをかみ締めている。同部は、3月に新潟市で行われる全国大会に出場予定。</p>
(20)	<p>北国に春を呼ぶ「八戸えんぶり」 ～青空の下 摺り晴れやかに～</p> <p>八戸地方を代表する伝統行事「八戸えんぶり」が2月20日に4日間の日程を終えた。期間中の入り込み数は29万3千人で、昨年を5万2千人上回った。今年は、土曜となった初日が前年を大きく上回り、市中心街での一斉摺りに多くの市民や観光客が詰め掛けた。2、3日目は昨年に比べて少なかったものの、更上閣での「お庭えんぶり」や撮影会に各地から市民カメラマンが訪れ、熱心に撮影。外国人観光客の姿も例年より目立った。20日には市庁前市民広場で一般公開が行われ、青空の下、太夫の摺りや祝福芸が晴れやかに披露され、観衆から大きな拍手が贈られた。</p>
(21)	<p>平昌五輪アイスホッケー女子日本代表のFW中村亜実選手 ～激闘「自信につながった」～</p> <p>アイスホッケー女子日本代表のFW中村亜実選手（八戸市出身、西武）が2月21日、韓国で取材に応じ、6位に終わった平昌オリンピックを「自信につながった」と笑顔で振り返った。中村選手にとっては収穫の多い大会だった。ソチは「世界の力を見せつけられただけ」だったが、平昌では強豪国を苦しめるプレーができた。上位国との差は痛感したが、「通用するプレーや改善点が分かった」と達成感をにじませた。4年後の北京を目指すかどうかは現時点では決めていないが、「続けるなら、これまで以上にレベルアップしなければいけない」と語っていた。</p>
(22)	<p>「山・鉾・屋台行事」 東京五輪で魅力発信を 機運高まる</p> <p>国連教育科学文化機関（ユネスコ）無形文化遺産に登録された八戸三社大祭を含む「山・鉾・屋台行事」の魅力が2020年東京五輪で発信しようとの機運が、超党派の国会議員の中で高まっている。国会議員は、無形文化遺産登録前から魅力発信や周知拡大に向けた活動を支援してきた議員連盟「ユネスコ無形文化遺産『山・鉾・屋台行事』を支援する議員の会」（会長・大島理森衆院議長）のメンバー。山・鉾・屋台行事に含まれる全国33件の祭礼行事に関する山車やPR動画を、東京五輪の関連会場に集めてアピールすることを想定している。</p>